

**地震解説資料第4号**  
**令和2年5月 13 日 17 時 30 分**  
**長野地方気象台**

**令和2年4月 22 日からの長野県中部の地震活動について**

情報発表での震央地名は〔長野県中部〕もしくは〔岐阜県飛騨地方〕

4月22日から長野県中部（長野・岐阜県境付近）を震源とする地震活動が続いています。

5月に入り、地震活動は規模・回数とも低下していましたが、本日（13日）、再び活発となり、07時04分頃にマグニチュード（以下、M）4.5（最大震度2）、09時40分頃にM4.5（最大震度2）、10時28分頃にM4.6（最大震度3、長野県内最大震度2）の地震が発生したほか、13日00時から16時までに、県内で震度1以上となる地震を7回観測しています。

4月22日から5月13日16時現在で、一連の長野県中部（長野・岐阜県境）の地震活動により、県内で震度1以上を観測した地震は71回となっています（岐阜県でのみ震度を観測した地震は17回）。

今後も地震活動が継続するおそれがあります。また、震源に近い場所では、観測される震度より大きな揺れとなることがあります。引き続き地震活動に注意してください。

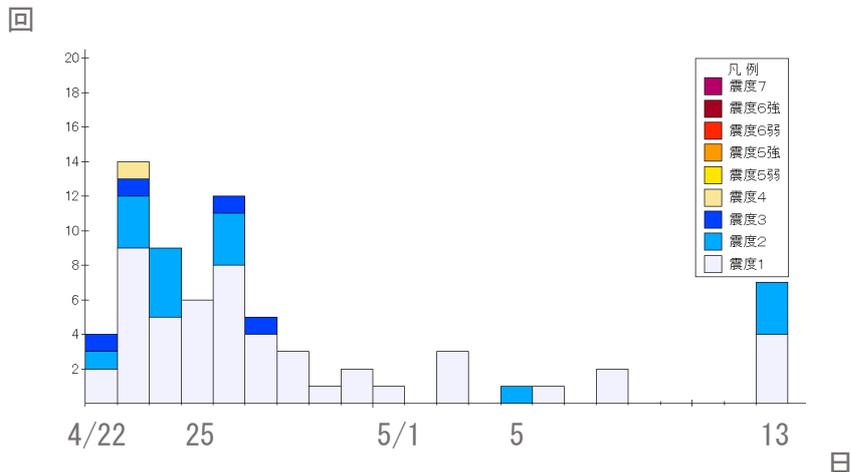
なお、焼岳山頂付近の地震活動は低調で、焼岳の火山活動に特段の変化は見られません（5月13日16時30分現在）。

**長野県中部の地震による震度別地震回数（「松本市安曇」観測点の回数）**

4月22日～5月13日16時00分

	震度1	震度2	震度3	震度4	震度5弱以上	合計
2020/4/22～4/30	40	11	4	1	0	56
2020/5/1～5/7	5	1	0	0	0	6
2020/5/8	2	0	0	0	0	2
2020/5/9	0	0	0	0	0	0
2020/5/10	0	0	0	0	0	0
2020/5/11	0	0	0	0	0	0
2020/5/12	0	0	0	0	0	0
2020/5/13	4	3	0	0	0	7
合計	51	15	4	1	0	71

※本表には岐阜県のみで震度を観測した地震は含まれていません。

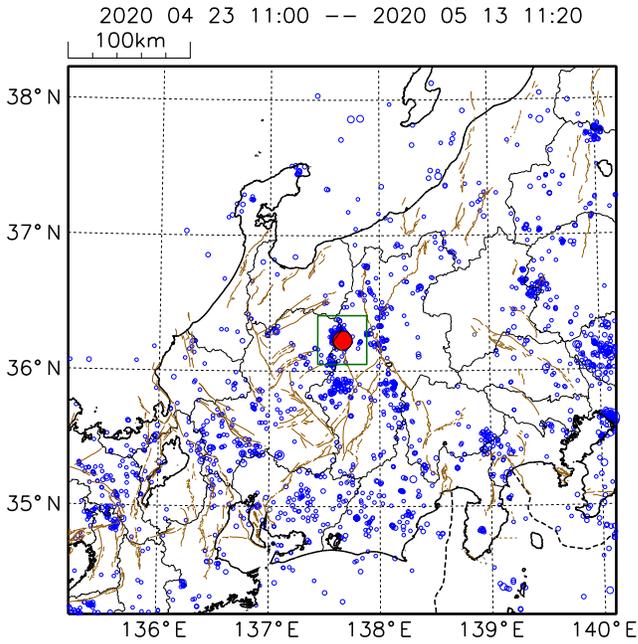


# 2020年4月23日13時44分頃 長野県中部の地震

(震源の色について)赤：今回の地震 青：今回の地震より後に発生した地震 灰：今回の地震より前に発生した地震

## 震央分布図（広域図）

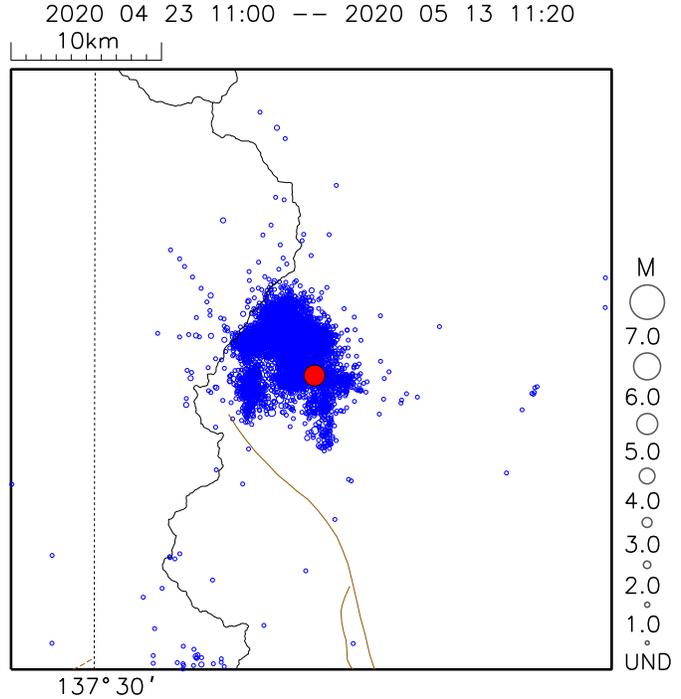
深さ0 -- 100km、 M 全て



## 震央分布図（詳細図）

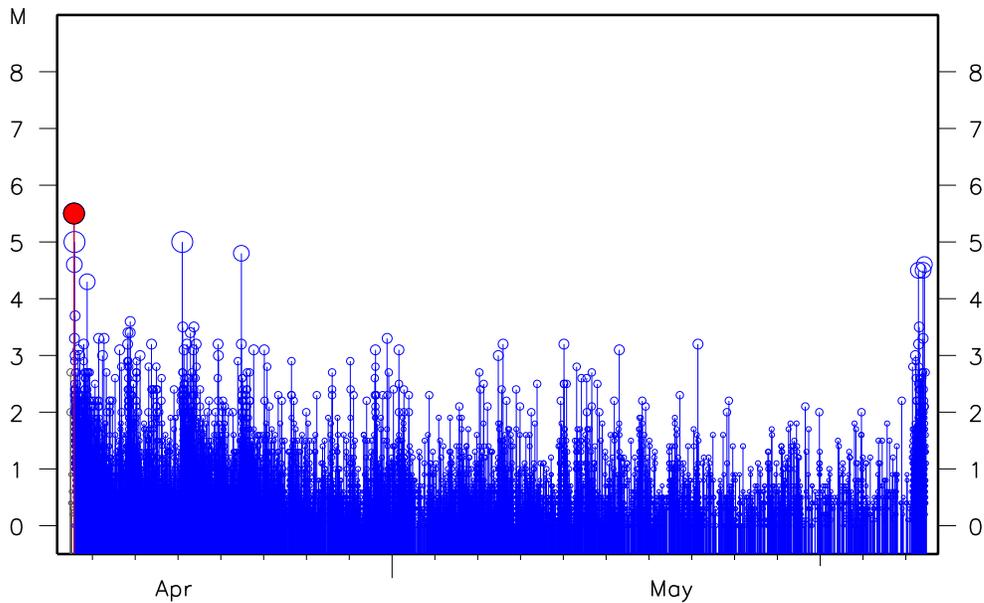
震央分布図（広域図）の四角形領域内の震央分布図

深さ0 -- 100km、 M 全て



## 震央分布図（詳細図）の地震活動経過図

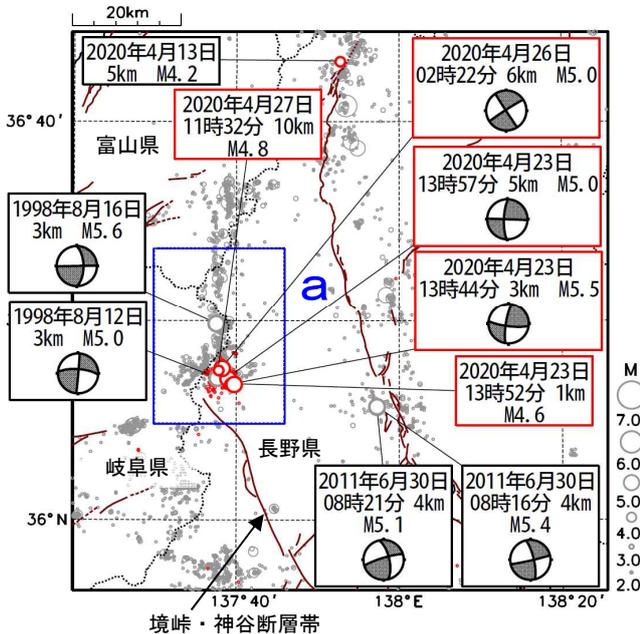
2020 04 23 11:00 -- 2020 05 13 11:20



- ・震央分布図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
  - ・震央分布図中の黒色の点線は、プレート境界を示す。
- <資料の利用上の留意点>
- ・表示している震源は、速報値を含みます。
  - ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがあります。
  - ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握にご利用ください。

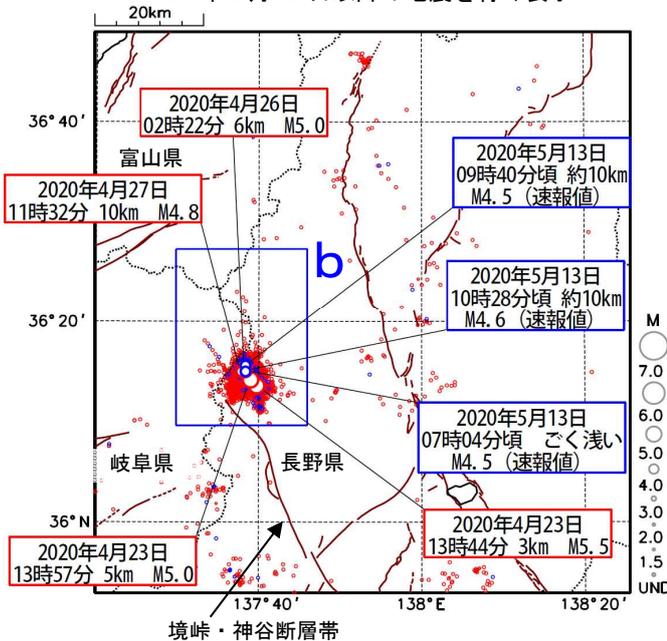
# 4月23日 長野県中部の地震 (5月13日11時までの活動 (速報))

震央分布図  
(1997年10月1日~2020年4月30日、  
深さ0~30km、M $\geq$ 2.0)  
2020年4月の地震を赤く表示



茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

震央分布図  
(2020年4月20日00時~2020年5月13日11時、  
深さ0~30km、M $\geq$ 0.0)  
2020年5月12日以降の地震を青く表示



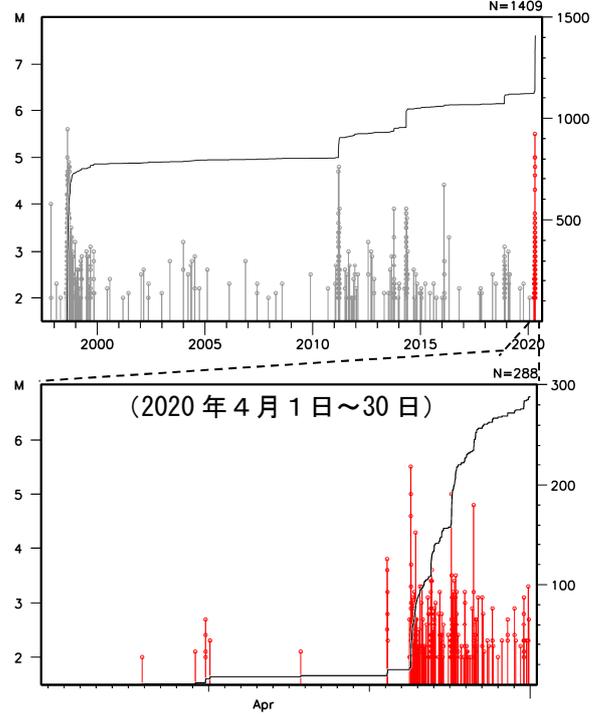
茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

領域bの範囲は領域aと同じであるが、震源の下限が異なるため便宜上「領域b」とした

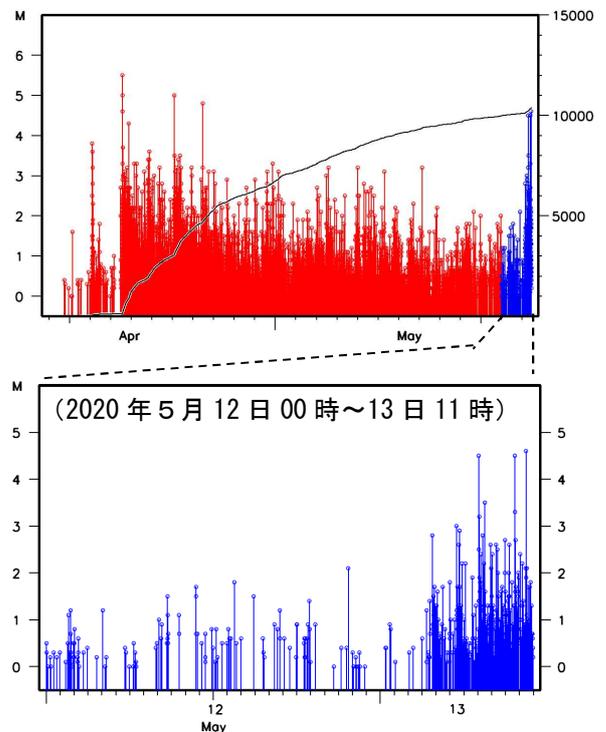
## <資料の利用上の留意点>

- ・表示している震源は、速報値を含む。
- ・速報値の震源には、発破等の地震以外のものや、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。
- ・個々の震源の位置や規模ではなく、震源の分布具合や活動の盛衰に着目して地震活動の把握に利用されたい。
- ・2020年4月18日以降の震源では、地震の規模の小さな地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震での震源決定数の変化(増減)が認められる

領域a内のM-T図及び回数積算図



領域b内のM-T図及び回数積算図



## 参考 地震のタイプ（断層の動き方）と発震機構解

地震は、断層の動き方によって、大きく三つ（横ずれを二つに分ければ四つ）の型に分けられます。

正断層：断層面を境にして、上盤（上側の岩盤）が下盤（下側の岩盤）に対して、ずり下がる。

逆断層：断層面を境にして、上盤が下盤に対して、のし上がる。

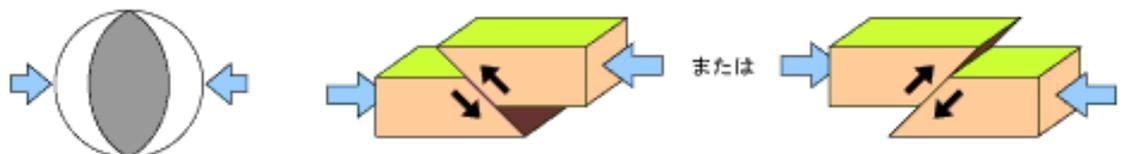
横ずれ断層：断層面を境にして、水平方向にずれる。

「右横ずれ断層」＝断層に向かって相手側のブロックが右に動いた場合

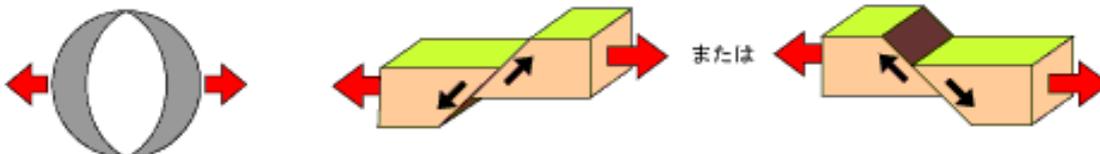
「左横ずれ断層」＝断層に向かって相手側のブロックが左に動いた場合

それぞれのタイプにおける、発震機構解の形と働く力の向きの典型的な例を以下に示します。

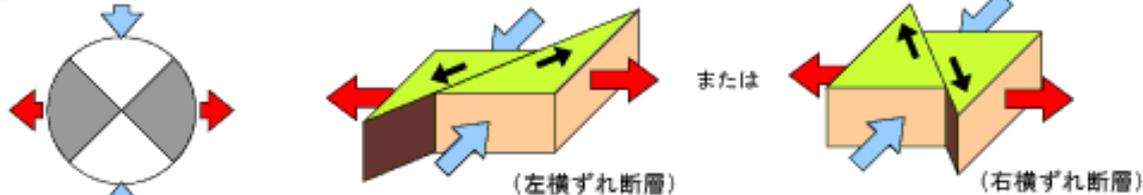
逆断層型



正断層型



横ずれ断層型



圧力（押す力）
 
 張力（引く力）
 断層がずれる方向